

南越前まち歩きってなに？

in河野

昨年6月から、地域おこし協力隊の田上隊員が河野地区を中心に行っている「南越前まち歩き」とは一体何なのか。何のために行い、何を目標に掲げて活動しているのか。今回は田上隊員の活動を深掘りし、南越前町の魅力を新しい視点からお届けします。

地域おこし協力隊 田上隊員について

福井市出身。高校までの18年間、福井で育ち、横浜の大学で建築学を6年間勉強。令和3年4月から地域おこし協力隊として河野に移り住み、現在任期3年目を迎えています。最近ハマっていることは、写真撮影です。



▲田上隊員

田上隊員にいろいろ聞いてみました。

「南越前まち歩き」とは、いったい何なのでしょう？

まちの魅力を再発見するための活動です。地域にお住まいの方に案内人をお願いし、町内外から訪れた10人前後の方々と共に大体2時間弱ほど地域を練り歩きます。回を重ねるごとにリピーターの方も増えてきていて、とても嬉しいです。

「具体的な流れを教えてください。」

はい。では、実際に「まち歩き」を行ったときの写真を使って、ご説明します。

まち歩きの流れ

2

集落の説明



次に、手作りの冊子を使い、まち歩きを行う集落の大まかな説明を行います。冊子には、古写真を載せているので、集落の現在と過去の様子を見比べることができます。

1

自己紹介



まず、和やかにまち歩きをするために、参加者同士で簡単に自己紹介をします。

3

案内人によるガイド



ここから、案内人（地域住民の方々）にバトンタッチです。案内人が生まれ育った土地だからこそできる話や経験をリアリティのある言葉で聞きながら、集落を練り歩きます。参加者の皆さんには、途中の気になったポイントの写真の撮影をお願いしています。

4

振り返り



最後に、お気に入りの写真を選んでいただき、一言ずつ感想を共有し、地域住民の方に質問して、振り返りを行います。

「まち歩き」で探る「まちの魅力」とは、住民の普通の生活に近い、一歩立ち止まってみないと見過ごしてしまう、日常に隠れたおもしろさのようなものです。

—これまで行ってきた「まち歩き」について詳しく教えてください。

はい。これまで、計7回のまち歩きを行ってきました(8/14時点)。河野地区の集落を歩いて回ったり、体験を重視して、梅の収穫を行ったり、歴史に焦点を当て、馬借街道を歩いたりしました。

参加者の方々の新鮮な眼差しと地域住民の方々の生きた記憶や知識によって河野の魅力が再発見されました。ここで、各回のまち歩きの様子や感想をご紹介します。

01 黄金の梅



まち歩き後も毎年、梅の収穫のお手伝いに行くようになりました。

(参加者Sさん)

02 馬借街道



歴史の座学も充実しており、実際に街道を歩く面白い企画でした。

(参加者Yさん)

03,07 甲楽城



馴染みのない漁港の文化やみなさんを知ることができ、身近に感じられるようになりました!

(参加者Tさん)

04 糠



杜氏の文化や入り組んだ町並みが面白い! 住民で集めた古い写真も興味深かった。

(参加者Nさん)

05 赤萩



表舞台に出ることのない集落の歴史・文化が伝えられ、未来へ新たな繋がりができたように感じました。

(案内人Kさん)

06 河野・今泉



説明を熱心に聞いてくださった。河野の漁の仕組みや魚種、歴史も伝えたい。

(案内人Hさん)

—どのような目的で「まち歩き」を始めたのですか？

最初は私自身が河野を知りたいという思いから始まりました。南越前町に来たばかりの頃、地域のことを知るために先輩協力隊や地元の人に繋いでいただいていたお話を聞いて回ると、「この貴重な話を自分だけで留めておくのは惜しい」と興味のある方を誘って一緒に回るようになり、その延長でイベントとして企画するようになりました。

最近驚いたことに、まち歩きに参加して河野への移住を検討される方が現れました。地域おこし協力隊としてのミッションは「移住・関係人口促進」ですので、微力ながら貢献できているように思います。まち歩きイベントにより町外から河野のファンを生むことができました。

—「まち歩き」のこれからの展望を教えてください。

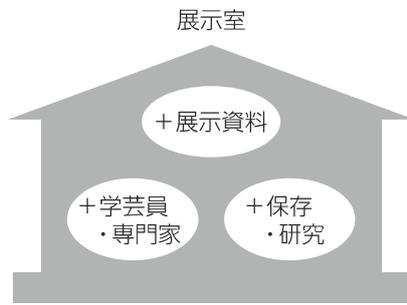
私は地域住民が「地域の魅力を再発見」「地域に愛着を持つ」ことに興味があります。それを実現するための長期的な展望として「エコミュージアム」という考え方をお手本としています。これは、1960年頃にフランスで発祥した概念で、日本では1970年頃、まちづくり・地域おこしの手法として紹介されるようになりました。「エコミュージアム」を日本語で言い換えるなら「地域まるごと博物館」となります。「博物館」はある分野の価値ある資料の収集・保存、調査・研究、展

示をする施設です。アートであれば美術館、生き物だと動物園や水族館、北前船の資料が集まる右近家も博物館のようですよね。その博物館の「展示室」を「地域」と見立てるということです。文だけでは少しわかりにくいかもしれませんが、図を使ってみます。

地域まるごと博物館



一般的な博物館



このように、河野全体の「地域」が「展示室」と捉えられるので、そこに点在している「地域の宝」のようなものが「展示資料」で、地域で暮らしたり仕事をしたりしている「住民」が「学芸員・専門家」にあたります。例えば定置網漁を価値ある「展示資料」と考えてみましょう。毎朝、漁港から海へ出て網をあげて魚をとっている漁師さんが「学芸員・専門家」です。漁師さんが日常的に仕事として漁をされていること自体が定置網漁の「生きた展示」をしていることとなります。漁師さんは網を修理する網仕事を行います。それは定置網漁の「保存」と言えるし、日々異なる条件下（気象条件、海の状態、季節など）でどんな魚が入るかを「研究」しているとも言えそうです。



定置網漁

一般的な博物館の「展示」は資料として部分を切り取ってハコに保存します。一方、地域まるごと博物館においては現地で保存されることで生態系

地域環境全体が展示対象といえます。定置網漁の生態系とは獲れる魚の生息環境であり、働く漁師の生活環境であり、さらには河野の自然環境に繋がっています。地域まるごと博物館にはそういった地域の自然や生活を繋ぎ、それらを見せる観光にも役立つような可能性があると考えています。



—最後の質問です。

田上隊員は今年度で任期3年目（満了）となりますが、活動終了に向けた目標などありますか？

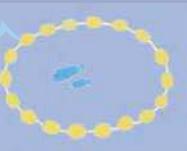
はい。今年度は、活動の集大成として、これまでの活動で見えてきた南越前町河野地区の、より日常に近い魅力をもとめた、ガイドブック（仮称）ふつこのこの「」を作成する予定です。河野地区の日常に隠れた魅力を、町内外の皆さまに知っていただけたらと思っています。



河野まるとと博物館MAP

松尾神社：糠杜氏の歴史
 糠河川トンネル
 入り組んだ街路、袋町

二宮神社
 甲楽城漁港
 中道



室(ムロ)
 人魚姫と岩
 中村家のカエル雨樋
 北前船主通り



円光寺
 洗い場
 十九社神社

旧火葬場
 下長谷の洞窟

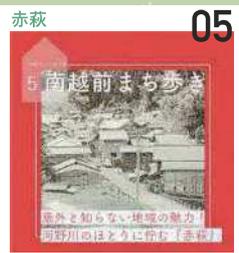
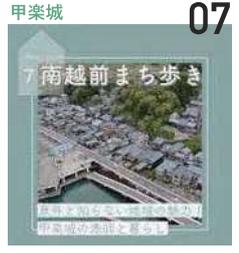
段丘上の風景 (広報表紙)

黄金の梅
 馬借街道

今泉
 右近家洋館
 河野

へしこ工房
 地蔵堂
 善導院
 春日神社
 赤萩

バス停
 河野川



上のマップは、これまでのまち歩きで巡った場所と発見した河野の魅力の一部をマッピングしたものです。作成予定のガイドブックの巻末には、さらに情報を加えた「河野まるとと博物館MAP」を掲載したいと考えていますので、マップに載せるべき「ここがオススメ!」というご意見があれば、ぜひお聞かせください。

残りの活動期間の中でも、さらなる町のかくれた魅力を発見、発信していきたいと思っておりますので、今後とも応援よろしくをお願いします!